

四半期報告書

(第48期第2四半期)

自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日

ワタベウェディング株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 2

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 5
- (7) 議決権の状況 6

2 役員の状況 6

第4 経理の状況 7

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 10
 - 四半期連結損益計算書 10
 - 四半期連結包括利益計算書 11
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 12

2 その他 16

第二部 提出会社の保証会社等の情報 17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年11月2日
【四半期会計期間】	第48期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	ワタベウェディング株式会社
【英訳名】	WATABE WEDDING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡部 秀敏
【本店の所在の場所】	京都市下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町671番地
【電話番号】	075（352）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 吉澤 康
【最寄りの連絡場所】	京都市下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町671番地
【電話番号】	075（352）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 吉澤 康
【縦覧に供する場所】	ワタベウェディング株式会社東京グランドプラザ （東京都中央区京橋1丁目1番6号） ワタベウェディング株式会社大阪グランドプラザ （大阪市北区角田町2番15号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪府中央区北浜1丁目8番16号）

（注）上記の東京グランドプラザ及び大阪グランドプラザは、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮して縦覧に供する場所としております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期連結 累計期間	第48期 第2四半期連結 累計期間	第47期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	24,137	22,296	50,555
経常利益又は経常損失（△）（百万円）	33	△492	1,345
四半期純損失（△）又は当期純利益（百万円）	△173	△532	176
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	△434	△672	△155
純資産額（百万円）	14,393	13,702	14,523
総資産額（百万円）	25,269	24,479	25,075
1株当たり四半期純損失金額（△）又は 1株当たり当期純利益金額（円）	△17.53	△53.71	17.83
潜在株式調整後1株当たり四半期（当 期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	57.0	55.9	57.9
営業活動によるキャッシュ・フロー（百 万円）	63	319	1,922
投資活動によるキャッシュ・フロー（百 万円）	△615	△540	△577
財務活動によるキャッシュ・フロー（百 万円）	150	△167	△436
現金及び現金同等物の四半期末（期末） 残高（百万円）	3,749	4,563	5,024

回次	第47期 第2四半期連結 会計期間	第48期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日
1株当たり四半期純損失金額（△） （円）	△22.30	△61.96

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第47期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、以下のとおりであります。

「リゾート挙式」におきましては、軽微ながらも、東日本大震災の影響を受け、挙式取扱組数は減少したものの、高品質のサービスを提供する米国ハワイ州の「ホヌカイヤニ コオリナ・ブレイス・オブ・ウェリナ」の効果により、一組当たりの婚礼単価が上昇いたしました。さらにお客様がリゾートの雰囲気を楽しみながら、挙式の準備をすすめて頂けることをコンセプトに「大宮店」を「大宮ソニックシティ店」として移転・リニューアルし、お客様満足度の向上に取り組んでまいりました。今後の需要拡大を目指して、平成23年9月には、グアム、沖縄の人気チャペル「ブルーアステール」と「アクアグレイス・チャペル」をリニューアルオープンしました。またアジアマーケットでの拡大を目指し、平成23年4月に、シンガポールの文化遺産施設である大聖堂「チャイムス・ホール」を利用して、婚礼施設として運営を開始し、海外でのローカル挙式を強化しております。

「ホテル・国内挙式」におきましては、平成23年5月に「目黒雅叙園」では初となる独立型のチャペル「ヴィラディ グラツィア」をオープンし、感謝の気持ちを伝える演出を多彩に取り入れた絆をテーマにした新しい結婚式を提案しております。また、「メルパーク名古屋」のガーデンチャペルや「メルパーク横浜」のロビーを改修するなど、感動をお届けする空間を創造すべく取り組んでまいりました。しかし、東日本大震災の影響は続いており、婚礼・宴会の実行件数が前年同四半期に比べて減少いたしました。

以上の結果、当社グループの業績は、挙式取扱組数の減少により、売上高22,296百万円（前年同四半期比7.6%減）、営業損失541百万円（前年同四半期 営業利益150百万円）、経常損失492百万円（同 経常利益33百万円）、四半期純損失532百万円（同 四半期純損失173百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

「ホテル・国内挙式」に比べて、東日本大震災の影響は少ないものの、挙式取扱組数が減少したため、売上高は9,805百万円（前年同四半期比5.9%減）、販売管理費の削減に取り組みましたが、営業利益は107百万円（同73.7%減）となりました。

② ホテル・国内挙式

東日本大震災の影響は、薄らいできているものの、それによる婚礼・宴会、宿泊キャンセル・延期を受けた結果、売上高は、12,491百万円（同8.9%減）となり、販売管理費の削減に努めましたが、営業損失は655百万円（前年同四半期 営業損失235百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが319百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが540百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが167百万円の支出となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）期末残高は、4,563百万円（前年同四半期は3,749百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は319百万円（前年同四半期比405.7%増）となりました。これは、税金等調整前四

半期純損失733百万円や法人税等の支払325百万円があったものの、減価償却費939百万円、前受金の増加488百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は540百万円(同12.2%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得711百万円、差入保証金の回収による収入205百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は167百万円(前年同四半期 150百万円の収入)となりました。これは主に配当金の支払額148百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月2日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,909,400	9,909,400	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,909,400	9,909,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万 円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	9,909,400	—	4,176	—	4,038

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社寿泉	京都市左京区岩倉南桑原町6番地	2,005	20.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	827	8.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	403	4.06
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	355	3.59
ワタベウエディング従業員持株会	京都市下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町671番地	318	3.21
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	300	3.02
株式会社京都銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	300	3.02
渡部 隆夫	京都市左京区	292	2.94
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16-13)	227	2.29
有限会社シュー	京都市左京区岩倉南桑原町6番地	220	2.22
計	—	5,250	52.97

(注) 1. 上記信託銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社827千株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社403千株、資産管理サービス信託銀行株式会社355千株であります。

2. 株式会社三菱東京UFJ銀行及びその共同保有者である三菱UFJ信託銀行株式会社等から、平成21年5月8日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成21年4月27日現在で以下のとおり株式を所有している旨の報告を受けました。しかし、当社として当第2四半期会計期間末時点における三菱UFJ信託銀行株式会社の実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況には含めておりません。

提出者（大量保有者）の氏名又は名称	所有株式等の 総数（千株）	株式等の保有 割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.02
三菱UFJ信託銀行株式会社	320	3.23
三菱UFJ投信株式会社	15	0.15
計	636	6.42

3. スパークス・アセット・マネジメント株式会社から、平成23年1月18日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成23年1月14日現在で以下のとおり株式を所有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況には含めておりません。

提出者（大量保有者）の氏名又は名称	所有株式等の 総数（千株）	株式等の保有 割合（％）
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	527	5.32
計	527	5.32

4. 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社から、平成23年6月21日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成23年6月15日現在で以下のとおり株式を所有している旨の報告を受けました。しかし、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況には含めておりません。

提出者（大量保有者）の氏名又は名称	所有株式等の 総数（千株）	株式等の保有 割合（％）
住友信託銀行株式会社	353	3.56
中央三井アセット信託銀行株式会社	148	1.49
計	501	5.06

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 300	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,905,600	99,056	—
単元未満株式	普通株式 3,500	—	—
発行済株式総数	9,909,400	—	—
総株主の議決権	—	99,056	—

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
ワタベウエディング株式会社	京都市下京区烏丸通仏光寺上る二帖半敷町671番地	300	—	300	0.0
計	—	300	—	300	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,028	4,567
売掛金	1,504	1,650
商品及び製品	237	244
仕掛品	32	33
原材料及び貯蔵品	596	620
その他	1,667	1,809
貸倒引当金	△31	△33
流動資産合計	9,035	8,891
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,961	5,902
土地	2,603	2,599
その他（純額）	2,023	1,942
有形固定資産合計	10,588	10,445
無形固定資産		
投資その他の資産	973	921
差入保証金	3,476	3,318
その他	1,039	941
貸倒引当金	△38	△38
投資その他の資産合計	4,477	4,222
固定資産合計	16,039	15,588
資産合計	25,075	24,479
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,501	1,589
短期借入金	850	917
前受金	2,335	2,808
賞与引当金	573	444
その他	2,498	2,125
流動負債合計	7,759	7,885
固定負債		
長期借入金	1,500	1,450
退職給付引当金	188	328
資産除去債務	542	561
その他	561	551
固定負債合計	2,793	2,892
負債合計	10,552	10,777

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,038
利益剰余金	7,757	7,077
自己株式	△0	△0
株主資本合計	15,971	15,291
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	11
繰延ヘッジ損益	4	△53
土地再評価差額金	△906	△906
為替換算調整勘定	△565	△648
その他の包括利益累計額合計	△1,453	△1,596
少数株主持分	4	7
純資産合計	14,523	13,702
負債純資産合計	25,075	24,479

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	24,137	22,296
売上原価	8,203	7,375
売上総利益	15,934	14,921
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	5,256	5,195
賞与引当金繰入額	253	319
退職給付費用	68	109
賃借料	3,214	3,110
その他	6,990	6,728
販売費及び一般管理費合計	15,783	15,462
営業利益又は営業損失 (△)	150	△541
営業外収益		
受取賃貸料	35	28
受取補償金	32	32
その他	54	75
営業外収益合計	122	137
営業外費用		
支払利息	13	12
開業費	58	—
為替差損	118	28
支払手数料	20	20
その他	28	26
営業外費用合計	239	88
経常利益又は経常損失 (△)	33	△492
特別利益		
固定資産売却益	162	—
投資有価証券売却益	—	70
特別利益合計	162	70
特別損失		
災害による損失	—	127
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	392	—
適格退職年金終了損	—	139
その他	101	43
特別損失合計	493	311
税金等調整前四半期純損失 (△)	△297	△733
法人税等	△122	△204
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△175	△529
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△1	3
四半期純損失 (△)	△173	△532

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△175	△529
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	△1
繰延ヘッジ損益	△67	△57
為替換算調整勘定	△179	△80
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△2
その他の包括利益合計	△258	△143
四半期包括利益	△434	△672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△432	△674
少数株主に係る四半期包括利益	△2	2

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△297	△733
減価償却費	911	939
賞与引当金の増減額(△は減少)	△266	△129
受取利息及び受取配当金	△10	△9
支払利息	13	12
為替差損益(△は益)	△7	28
売上債権の増減額(△は増加)	154	△145
たな卸資産の増減額(△は増加)	△78	△30
仕入債務の増減額(△は減少)	△159	95
前受金の増減額(△は減少)	451	488
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	392	—
その他	△496	129
小計	608	646
利息及び配当金の受取額	6	11
利息の支払額	△13	△13
法人税等の支払額	△537	△325
営業活動によるキャッシュ・フロー	63	319
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△375	—
有形固定資産の取得による支出	△1,166	△711
有形固定資産の売却による収入	996	7
無形固定資産の取得による支出	△152	△85
投資有価証券の売却による収入	—	120
差入保証金の差入による支出	△105	△64
差入保証金の回収による収入	172	205
その他	15	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△615	△540
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	83
長期借入れによる収入	500	200
長期借入金の返済による支出	△176	△266
配当金の支払額	△148	△148
その他	△23	△35
財務活動によるキャッシュ・フロー	150	△167
現金及び現金同等物に係る換算差額	△87	△72
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△488	△460
現金及び現金同等物の期首残高	4,237	5,024
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 3,749	* 4,563

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	
(退職給付引当金)	
当社は、税制適格退職年金制度と退職一時金制度を採用していましたが、平成23年9月1日に税制適格退職年金制度を廃止しております。	
この廃止に伴い「退職給付制度間の移行に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 平成14年1月31日)を適用し、廃止による影響額は当第2四半期連結累計期間の特別損失として139百万円計上しております。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (百万円)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 4,159	現金及び預金勘定 4,567
預入期間が3か月を超える定期預金 △410	預入期間が3か月を超える定期預金 △3
現金及び現金同等物 3,749	現金及び現金同等物 4,563

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	148	15	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月2日 取締役会	普通株式	148	15	平成22年9月30日	平成22年12月1日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	148	15	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	148	15	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	10,423	13,714	24,137	—	24,137
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,355	93	3,448	(3,448)	—
計	13,778	13,807	27,586	(3,448)	24,137
セグメント利益又は損失(△)	410	△235	174	(24)	150

(注) 1. セグメント利益の調整額△24百万円には、セグメント間取引消去7百万円、棚卸資産等の調整額△31百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	9,805	12,491	22,296	—	22,296
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,917	107	3,024	(3,024)	—
計	12,722	12,599	25,321	(3,024)	22,296
セグメント利益又は損失(△)	107	△655	△548	6	△541

(注) 1. セグメント利益の調整額6百万円には、セグメント間取引消去7百万円、棚卸資産等の調整額△0百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純損失金額	17円53銭	53円71銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 (百万円)	173	532
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額 (百万円)	173	532
普通株式の期中平均株式数 (株)	9,909,172	9,909,091

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成23年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額 148百万円

1 株当たりの金額 15円

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月 1 日

(注) 平成23年 9 月 30 日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年10月28日

ワタベウェディング株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大西 康弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 洋之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩淵 貴史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているワタベウェディング株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ワタベウェディング株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。